



# ゾーン トラフィックの特性の ラーニング

この項では、Guard モジュールのラーニング プロセスを使用してゾーン トラフィックの特性を分析し、Guard モジュールがゾーン保護に使用するポリシーを作成および微調整する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [ラーニング プロセスについて](#)
- [保護およびラーニング機能について](#)
- [ゾーンのラーニング プロセスの結果と Cisco Traffic Anomaly Detector Module の同期](#)
- [ポリシーの構築](#)
- [ポリシーしきい値の調整](#)
- [ラーニング パラメータの設定](#)
- [ゾーンのポリシーのしきい値調整とゾーン保護のイネーブル化の同時実行](#)
- [スナップショットを使用したラーニング プロセスの結果の確認](#)
- [ゾーン ポリシーのバックアップ](#)

## ラーニング プロセスについて

ラーニング プロセスは、ネットワーク上で現在攻撃が発生していないときに、通常のトラフィック パターンのベースラインを作成します。Guard モジュールは、このベースラインを、ゾーントラフィック内における異常の存在を検出するための参照ポイントとして使用します。これらの参照ポイントをポリシーといいます。

ポリシーを構築する最初のラーニング プロセスが終了したら、ラーニング プロセスとゾーン保護を同時にアクティブにできます。Guard モジュールは、ポリシーのしきい値を調整するとともに、トラフィックに異常がないかどうかについて、ポリシーのしきい値を監視します。このプロセスにより、ポリシーのしきい値をゾーンのトラフィック特性に従って常にアップデートしながら、Guard モジュールでゾーンを保護できるようになり、Guard モジュールで悪意のあるトラフィックのしきい値をラーニングすることがなくなります。

ゾーンのトラフィック特性をラーニングするには、ゾーンのトラフィックを Guard モジュールに宛先変更する必要があります。外部デバイスを使用して、ラーニング プロセスを開始する前に宛先変更を設定するか、ゾーンのトラフィックを Guard モジュールに手動で宛先変更する必要があります。Guard モジュールのルーティング設定を使用して、ゾーンの宛先変更を設定します。

詳細については、[第5章「トラフィックの宛先変更の設定」](#)を参照してください。



(注)

ラーニング プロセス中に Guard モジュールがパケットをドロップするのは、パケットに含まれている、送信元 IP アドレス、プロトコル番号、UDP 送信元ポートまたは宛先ポート、TCP 送信元ポートまたは宛先ポートのいずれかのフィールドが 0 である場合です。

ラーニング プロセスが完了する前にゾーンに対する攻撃があった場合、次の条件のいずれかに該当するときは、オンデマンド保護を使用してゾーンを保護します。

- ゾーンがラーニング プロセスの実行中である。
- 保護およびラーニング機能がイネーブルになっているが、Guard モジュールは、ゾーンのトラフィック特性をラーニングしていない。

- ゾーンのトラフィックを表さないと考えられるポリシーのしきい値を受け入れている。

詳細については、[P.10-3](#)の「オンデマンド保護のアクティブ化」を参照してください。

複数のゾーンに対して同時にラーニング関連のコマンドを入力できます。これには、グローバルモードで、ワイルドカードにアスタリスク (\*) を使用してコマンドを発行します。たとえば、すべてのゾーンについてポリシー構築フェーズを開始する場合は、グローバルモードで **learning policy-construction \*** コマンドを入力します。scan で始まる名前を持つ Guard モジュールのすべてのゾーン (scannet や scanserver など) のポリシー構築フェーズの結果を受け入れるには、グローバルモードで **no learning scan\* accept** コマンドを入力します。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [ラーニングプロセスのフェーズについて](#)
- [ラーニングプロセスの結果の確認](#)

## ラーニングプロセスのフェーズについて

ラーニングプロセスは、次の2つのフェーズで構成されています。

- **ポリシー構築**: Guard モジュールはポリシー テンプレートを使用してゾーンポリシーを作成します。トラフィックは Guard モジュールを通過し、ゾーンによって使用される主なサービスを検出できます。既存のポリシーが新しいポリシーで上書きされます。

ポリシー テンプレートは、Guard モジュールのポリシー構築用ツールです。このテンプレートは、Guard モジュールが作成するゾーンポリシーのタイプを定義します。また、ポリシー テンプレートは、Guard モジュールが厳密に監視するサービスの最大数と、Guard モジュールによる新しいポリシーの作成をトリガーする最小しきい値も定義します。ゾーンポリシーを構築するための規則を変更するには、ポリシー テンプレート パラメータを変更してから、ポリシー構築フェーズを開始する必要があります。詳細については、[第8章「ポリシーテンプレートとポリシーの設定」](#)を参照してください。

GUARD\_LINK ゾーン テンプレートを使用して作成されたゾーンに対してポリシー構築フェーズを実行することはできません。

- しきい値調整：Guard モジュールは、ゾーン サービスのトラフィック レートに合わせて、ポリシー構築フェーズ中に構築されたポリシーを調整します。トラフィックは Guard モジュールを通過し、ゾーン ポリシーの構築中に検出されたサービスのしきい値を調整できます。既存のしきい値が新しいしきい値で上書きされます。

しきい値調整フェーズとゾーン保護を同時にアクティブにすると（保護およびラーニング機能）、Guard モジュールで悪意のあるトラフィックのしきい値をラーニングすることを防止できます。Guard モジュールが常にゾーン ポリシーを調整するように設定し、Guard モジュールがポリシーのしきい値を更新するときの間隔を定義することができます。



**(注)** 保護およびラーニング機能をアクティブにすると、ゾーンのトラフィックが常に Guard モジュールに誘導されます。

Guard モジュールは、ゾーンのトラフィックの特性をラーニングして、ゾーンのトラフィックを比較するベースラインを作成し、悪意の攻撃となる可能性のある異常をすべてトレースします。Guard モジュールは、ラーニング プロセスの間は、現在のゾーン ポリシーを変更しません。ラーニング フェーズの結果の1つを受け入れると決めたときに限り、ポリシーを更新します。ポリシーが作成された後は、ポリシーを追加または削除できます。また、しきい値、サービス、タイムアウト、アクションなどのポリシー パラメータを変更することもできます。

## ラーニング プロセスの結果の確認

ラーニング プロセス中のどの段階でも、任意のラーニング フェーズの現在の結果を保存して、後で **snapshot** コマンドを使用して確認できます。ラーニング プロセスのスナップショットを保存することで、スナップショットのポイントまでに Guard モジュールが作成したポリシー情報を表示し、ラーニング プロセスの結果を受け入れるかどうかを判断できます。ラーニング フェーズの結果をスナップショットに保存しても、ゾーン設定には影響はありません。スナップショット内のポリシー情報を使用してゾーン設定をアップデートできます。

## 保護およびラーニング機能について

ポリシーを構築する最初のラーニング プロセスが終了したら、ラーニング プロセスをアクティブにし、保護およびラーニング機能を使用して、同時にゾーン保護をイネーブルにできます。Guard モジュールは、ポリシーのしきい値を調整するとともに、トラフィックに異常がないかどうかについて、ポリシーのしきい値を監視します。保護およびラーニング機能により、ポリシーのしきい値をゾーンのトラフィック特性に基づいて常にアップデートしながら、Guard モジュールでゾーンを保護できるようになるため、Guard モジュールが悪意のあるトラフィックのしきい値をラーニングすることがなくなります。

保護およびラーニング機能をアクティブにする前に、ラーニング パラメータを設定することで、Guard モジュールがラーニング プロセスの結果をいつ、どのように受け入れるかを設定できます。

詳細については、[P.9-21](#) の「ゾーンのポリシーのしきい値調整とゾーン保護のイネーブル化の同時実行」を参照してください。

## ゾーンのラーニング プロセスの結果と Cisco Traffic Anomaly Detector Module の同期

Cisco Traffic Anomaly Detector Module (Detector モジュール) がゾーン上で攻撃を検出すると、ラーニングプロセスを停止し、Guard モジュールをアクティブ化してゾーンを保護します。その後、攻撃が終了すると、ゾーントラフィックのラーニングを再開します。このプロセスにより、トラフィックに対するゾーンのポリシーのしきい値を継続的に調整できる一方で、ゾーンのトラフィックが常に Guard モジュールに宛先変更されることがなくなります。Detector モジュールがゾーンのトラフィックを常にラーニングして、ゾーンのポリシーで Guard モジュールをアップデートするように設定できます。



(注)

---

このオプションは Detector モジュール上でだけ設定できます。詳細については、『Cisco Traffic Anomaly Detector Module コンフィギュレーションガイド』を参照してください。

---

ラーニングプロセスの結果を Detector モジュールと同期させるには、次の作業を実施する必要があります。

1. Guard モジュールを Detector モジュール上のリモート Guard リストに追加して、通信方法を Secure Socket Layer (SSL) として定義します。
2. Detector モジュールとの SSL 通信チャネルを確立します。P.4-28 の「[SSL 通信チャネルの設定](#)」を参照してください。

Detector モジュール上で、Guard ゾーンテンプレートを使用してゾーンを作成します。ゾーンの設定を Detector モジュールと手動で同期させたり、Detector モジュールを設定して、ゾーンの設定を Guard モジュールと自動的に同期させることができます。詳細については、P.6-15 の「[Guard モジュールの Cisco Traffic Anomaly Detector Module とのゾーン設定の同期](#)」を参照してください。

## ポリシーの構築

ポリシー構築フェーズは、新しいゾーンを作成した後や、ゾーン設定が新しいサービス ポリシーを使用してアップデートを行う必要があるときに使用します。ポリシー構築フェーズを実行した後、しきい値調整フェーズを実行して各ポリシーのしきい値を微調整します。

ポリシー構築フェーズでは、Guard モジュールはポリシー テンプレートをを使用してゾーン ポリシーを作成します。トラフィックが Guard モジュールを通過し、ゾーンによって使用される主なサービス（ポートとプロトコル）を検出できません。ポリシー構築の規則を設定することもできます。たとえば、Guard モジュールで特定のタイプのポリシーが作成されないようにするには、関連するポリシー テンプレートをディセーブルにします。ゾーン ポリシーを構築するための規則を変更するには、ポリシー テンプレート パラメータを変更してから、ポリシー構築フェーズを開始する必要があります。詳細については、[P.8-5 の「ポリシー テンプレートについて」](#)を参照してください。

Guard モジュールは、ポリシー パラメータ（タイムアウト、アクション、およびしきい値）のデフォルト値を設定します。動作パラメータのデフォルト値の設定方法については、[第8章「ポリシー テンプレートとポリシーの設定」](#)を参照してください。

このフェーズで Guard モジュールが作成する新しいポリシーは、既存のポリシーに置き換えられます。



(注)

---

これらの帯域幅限定リンクのゾーン テンプレート `GUARD_LINK_128K`、`GUARD_LINK_1M`、`GUARD_LINK_4M`、および `GUARD_LINK_512K` に基づくゾーンに対しては、ポリシー構築フェーズを実行できません。

---

ポリシー構築フェーズをアクティブ化する前に、ゾーン上に攻撃がないことを確認してください。これにより、Guard が、DDoS 攻撃（分散型サービス拒絶攻撃）のトラフィック特性に基づいてポリシーを構築することを回避できます。Guard が、DDoS 攻撃のトラフィック特性をラーニングし、攻撃の結果をベースラインとして保存してしまうと、攻撃を通常のトラフィックの状態とみなすため、Guard はその後に発生する攻撃を検出できなくなります。

## ■ ポリシーの構築

ゾーンポリシーを構築するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** ゾーン設定モードで次のコマンドを入力することで、ポリシー構築フェーズを実行できます。

```
learning policy-construction
```

- ステップ 2** Guard モジュールがゾーンのトラフィックの宛先変更を実行していることを確認してください。

ポリシー構築またはしきい値調整を開始してから少なくとも 10 秒待ってから、**show rates details** コマンドを実行します。*Received traffic* レートの値がゼロより大きいことを確認します。値がゼロの場合は、宛先変更の問題があることを示しています。

- ステップ 3** (オプション) Guard モジュールが構築中のポリシーを表示します。

ポリシー構築フェーズの任意の段階で **snapshot** コマンドを使用して、ラーニングパラメータ (サービス、しきい値、およびポリシー関連のその他のデータ) のスナップショットを保存しておいて、後で確認することができます。単一のスナップショットを保存するか、定期的なスナップショットを (指定した間隔で) 保存することができます。

詳細については、[P.8-43](#) の「[ポリシー設定のバックアップ](#)」を参照してください。

- ステップ 4** (オプション) ポリシー構築フェーズを長期間実行する場合、ポリシー構築フェーズを停止しなくても、Guard モジュールによって提案されたポリシーを受け入れることができます。ポリシーを 1 回受け入れるか、提案されたポリシーを Guard モジュールが指定された間隔で自動的に受け入れるように定義できます。これでゾーンが最新のポリシーを持つだけでなく、継続してゾーンのトラフィックをラーニングすることを保証できます。

Guard モジュールによって提案されたポリシーを受け入れ、ポリシー構築フェーズを継続するには、次のコマンドを使用します。

```
learning accept
```



Guard モジュールによって提案されたポリシーを指定した間隔で自動的に受け入れるには、次のコマンドを入力します。

```
learning-params periodic-action auto-accept learn_params_days  
learn_params_hours learn_params_minutes
```

詳細については、[P.9-16](#)の「[ラーニングパラメータの設定](#)」を参照してください。

定期的なアクションを終了するには、**no learning-params periodic-action** コマンドを使用します。

**ステップ 5** 十分に時間をおいてからポリシー構築フェーズを終了し、新しく構築されたポリシーの取り扱いを決定します。

ゾーンが使用する主なサービス（ポートおよびプロトコル）を Guard モジュールが検出するための十分な時間を確保するために、ポリシー構築フェーズを少なくとも2時間継続することをお勧めします。

次のアクションのいずれかを行うことができます。

- 提案されたポリシーの受け入れ：Guard モジュールによって提案されたポリシーを受け入れるには、ゾーン設定モードで次のコマンドを入力します。

```
no learning accept
```

Guard モジュールは、以前にラーニングしたポリシーとしきい値を消去します。

新しく構築されたポリシーを受け入れた後は、手動でポリシーを追加または削除できます。詳細については、[第8章](#)「[ポリシーテンプレートとポリシーの設定](#)」を参照してください。

- 提案されたポリシーの拒否：Guard モジュールによって提案されたポリシーを拒否するには、ゾーン設定モードで次のコマンドを入力します。

```
no learning reject
```

Guard モジュールはプロセスを停止し、ラーニングした新しいポリシーを保存しません。ゾーンのポリシーは、Guard モジュールがラーニングプロセスを開始する前か、ポリシー構築フェーズの結果を最後に受け入れる前のポリシーになります。

次の例は、ポリシー構築フェーズを開始し、提案されたポリシーを 12 時間間隔で受け入れる方法を示しています。さらに、ポリシー構築フェーズを停止し、提案されたポリシーを受け入れる方法も示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# learning policy-construction  
user@GUARD-conf-zone-scannet# learning-params periodic-action  
auto-accept 0 12 0  
user@GUARD-conf-zone-scannet# no learning accept
```

## ポリシーしきい値の調整

しきい値調整フェーズでは、Guard モジュールがゾーンのトラフィックを分析し、ポリシー構築フェーズで構築されたポリシーのしきい値を定義します。

Guard モジュールが、最後に受け入れられたポリシーしきい値を監視してトラフィックの異常を探しながら、ゾーンのトラフィックをラーニングするように設定できます。Guard モジュールは、ゾーンに対する攻撃を検出した後、しきい値調整フェーズを停止しますが、ゾーン保護を継続することで、Guard モジュールが悪意のあるトラフィックのしきい値をラーニングすることがなくなります。

攻撃が終了すると、Guard モジュールはラーニング プロセスを再開します。Guard モジュールは、攻撃の終了後、`protection-end-timer` によって定義された期間（ただし 10 分未満）待機してからラーニング プロセスを再度アクティブにします。詳細については、[P.10-13](#) の「保護の無活動タイムアウトの設定」を参照してください。

ポリシーのしきい値を調整するには、次の手順を実行します。

---

**ステップ 1** ゾーン設定モードで次のコマンドを入力することで、しきい値調整フェーズを実行できます。

```
protect learning
```

保護およびラーニング機能を開始すること、つまり、しきい値調整フェーズをアクティブにすると同時に Guard モジュールがゾーンを保護するように設定することをお勧めします。

すでにゾーン保護またはラーニング プロセスのしきい値調整フェーズをアクティブにしている場合、`learning threshold-tuning` コマンドと `protect` コマンド（順序は問いません）の両方を入力して、保護およびラーニング機能をアクティブにします。

Guard モジュールは、ゾーンに対する攻撃を検出した場合はしきい値調整フェーズを停止しますが、ゾーン保護は継続します。



(注)

ゾーン宛てのトラフィックが通常の量のときに、保護およびラーニング モードをアクティブにした場合、Guard モジュールは、ピーク時のトラフィックを攻撃と見なす可能性があります。このような場合は、次のいずれかを行うことができます。

- ゾーン設定モードで **learning-params threshold-tuned** コマンドを入力することで、ゾーン ポリシーしきい値の状態を未調整に設定できます。詳細については、P.9-19 の「ポリシーに対する調整済みのマーク付け」を参照してください。
- ゾーン設定モードで **no protect** コマンドを入力して、ゾーン保護を無効にし、ゾーン ポリシーしきい値を継続してラーニングします。

ゾーン保護としきい値調整フェーズを同時に非アクティブにするには、ゾーン設定モードで **deactivate** コマンドを使用します。

しきい値調整フェーズだけをアクティブにするには、**learning threshold-tuning** コマンドを使用します。

**ステップ 2** Guard モジュールがゾーンのトラフィックの宛先変更を実行していることを確認してください。

ポリシー構築またはしきい値調整を開始してから少なくとも 10 秒待ってから、**show rates details** コマンドを発行します。*Received traffic* レートの値がゼロより大きいことを確認します。値がゼロの場合は、宛先変更の問題があることを示しています。

**ステップ 3** (オプション) Guard モジュールが調整中のポリシーを表示します。

しきい値調整フェーズの任意の段階で、**snapshot** コマンドを使用して、ラーニングパラメータ (サービス、しきい値、およびポリシー関連のその他のデータ) のスナップショットを保存できます。後でスナップショットを確認することや、ラーニングパラメータを別のスナップショットと比較することができます。単一のスナップショットを保存するか、定期的なスナップショットを (指定した間隔で) 保存することができます。

詳細については、P.8-43 の「ポリシー設定のバックアップ」を参照してください。

**ステップ 4** ポリシーを受け入れます。

Guard モジュールが提案したゾーン ポリシーを受け入れ、しきい値の調整フェーズを継続するか、または Guard モジュールが自動的に提案したポリシーを指定した間隔で受け入れることを定義することで、ゾーンが最新のポリシーを持ち、ゾーンのトラフィックのラーニングを継続することが保証されます。

Guard モジュールによって提案されたポリシーを受け入れ、しきい値調整フェーズを継続するには、次のコマンドを使用します。

```
learning accept [threshold-selection {new-thresholds | max-thresholds  
| weighted weight}]
```

threshold-selection の引数とキーワードについては、表 9-2 を参照してください。

Guard モジュールによって提案されたポリシーを指定した間隔で自動的に受け入れるには、次のコマンドを入力します。

```
learning-params periodic-action auto-accept learn_params_days  
learn_params_hours learn_params_minutes
```

詳細については、P.9-16 の「ラーニングパラメータの設定」を参照してください。

定期的なアクションを終了するには、**no learning-params periodic-action** コマンドを使用します。

**ステップ 5** 十分な時間が経過してから、しきい値調整フェーズを終了し、新しく調整されたポリシーの処理方法を決定します。**(注)**

---

しきい値調整フェーズをトラフィックのピーク時（1 日で最も忙しい部分）に、少なくとも 24 時間実行して、Guard モジュールがポリシーしきい値を正しく調整するために十分な時間を確保することをお勧めします。

---

ただし、Guard モジュールがゾーンのトラフィックを常に宛先変更している場合は、保護およびラーニング機能をアクティブのままにして、しきい値調整フェーズを終了しないことをお勧めします。

次のアクションのいずれかを行うことができます。

- 提案されたポリシーの受け入れ：Guard モジュールによって提案されたポリシーのしきい値を受け入れるには、ゾーン設定モードで次のコマンドを入力します。

```
no learning accept [threshold-selection {new-thresholds |
max-thresholds | weighted weight}]
```

threshold-selection の引数とキーワードについては、表 9-2 を参照してください。

Guard モジュールは、以前にラーニングしたしきい値を消去します。

新しく調整されたポリシーを受け入れた後は、手動でポリシーのパラメータを変更することができます。詳細については、第 8 章「ポリシー テンプレートとポリシーの設定」を参照してください。

- 提案されたポリシーの拒否：Guard モジュールによって提案されたポリシーのしきい値を拒否するには、ゾーン設定モードで次のコマンドを入力します。

```
no learning reject
```

Guard モジュールはしきい値の調整を停止して、前のしきい値の状態に戻します。そのプロセスの結果、新しく構築されたゾーン ポリシーには、以前のトラフィック特性に基づいて取得したしきい値が使用される場合があります。後でしきい値調整フェーズを有効にするか、またはそのしきい値を手動で設定することをお勧めします。

次の例は、しきい値調整フェーズを開始し、提案されたポリシーを 1 時間間隔で受け入れる方法を示しています。Guard モジュールは、次に、しきい値調整フェーズを停止し、しきい値が現在の値よりも大きい場合に、提案されたポリシーを受け入れます (max-thresholds 方式)。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# learning threshold-tuning
user@GUARD-conf-zone-scannet# learning-params periodic-action
auto-accept 0 1 0
user@GUARD-conf-zone-scannet# no learning accept threshold-selection
max-thresholds
```

ラーニングの結果を表示するには、**show policies statistics** コマンドを使用します。詳細については、P.8-38 の「ポリシーの表示」を参照してください。

ラーニングしたしきい値を確認した後は、結果の一部を変更できます。この変更がその後のしきい値調整フェーズで上書きされないようにするには、次のタスクのいずれかを実行します。

- ポリシーのしきい値を固定値として設定する：Guard モジュールは新しいしきい値を無視し、現在のしきい値を保持します。詳細については、[P.8-26 の「固定値としてのしきい値の設定」](#)を参照してください。
- ポリシーの固定乗数を設定する：Guard モジュールが新しいポリシーのしきい値を計算する場合は、ラーニングしたしきい値に指定の乗数を掛け、その結果にしきい値選択方式を適用します。詳細については、[P.8-27 の「しきい値の乗数の設定」](#)を参照してください。

## ラーニングパラメータの設定

ラーニングパラメータを使用すると、Guard モジュールで実行できるラーニング関連のアクションと、指定したポリシーを Guard モジュールで処理する方法を設定できます。次のパラメータを定義できます。

- **periodic-action** : 自動的にゾーン ポリシーを受け入れ、指定した間隔でゾーン ポリシーのスナップショットを保存するように Guard モジュールを設定します。

詳細については、P.9-17 の「[定期的なアクションの設定](#)」を参照してください。

- **threshold-tuned** : ゾーンのポリシーに調整済みのマークを付けます。ゾーンのポリシーが調整済みとしてマークされていない場合、Guard モジュールはゾーンに対する攻撃を検出しません。

詳細については、P.9-19 の「[ポリシーに対する調整済みのマーク付け](#)」を参照してください。

- **threshold-selection** : Guard モジュールがしきい値調整フェーズの結果を受け入れて新しいポリシーのしきい値を生成するときに使用される、デフォルトの方式を設定します。

詳細については、P.9-18 の「[しきい値選択方式の設定](#)」を参照してください。

- **fixed-threshold** : ポリシーのしきい値を固定として設定するため、Guard モジュールは後続のしきい値調整フェーズで、ポリシーしきい値の値を変更しません。

詳細については、P.8-26 の「[固定値としてのしきい値の設定](#)」を参照してください。

- **threshold-multiplier** : ポリシーのしきい値の固定乗数を設定するので、Guard モジュールは後続のしきい値調整フェーズで新しいポリシーしきい値を計算します。

詳細については、P.8-27 の「[しきい値の乗数の設定](#)」を参照してください。

ラーニングパラメータの設定を表示するには、ゾーン設定モードで **show learning-params** コマンドを使用します。



## 定期的なアクションの設定

指定した間隔で次のいずれかのアクションを実行するように Guard モジュールを設定します。

- ゾーン ポリシーを自動的に受け入れ、ポリシーのスナップショットを保存する
- ゾーン ポリシーのスナップショットだけを保存する

スナップショットの詳細については、[P.8-38](#) の「[ポリシーの監視](#)」を参照してください。

Guard モジュールが実行する定期的なアクションを設定するには、ゾーン設定モードで次のコマンドを入力します。

```
learning-params periodic-action {auto-accept | snapshot-only}
  learn_params_days learn_params_hours learn_params_minutes
```

表 9-1 に、`learning-params` コマンドの引数とキーワードを示します。

**表 9-1 learning-params periodic-action コマンドの引数とキーワード**

パラメータ	説明
<code>auto-accept</code>	Guard モジュールによって提案されたポリシーを、指定された間隔で受け入れます。Guard モジュールは新しく提案されたゾーン ポリシーを受け入れた後で、ゾーンポリシーのスナップショットを保存します。
<code>snapshot-only</code>	指定された間隔でポリシーのスナップショットを保存します。Guard モジュールは新しいポリシーを受け入れず、ポリシーのしきい値を変更しません。
<code>learn_params_days</code>	間隔（日単位）。0 ～ 1000 の整数を入力します。
<code>learn_params_hours</code>	間隔（時間単位）。0 ～ 1000 の整数を入力します。
<code>learn_params_minutes</code>	間隔（分単位）。0 ～ 1000 の整数を入力します。

間隔の値は、`learn_params_days` 値、`learn_params_hours` 値、および `learn_params_minutes` 値の合計となります。

## ■ ラーニングパラメータの設定

次の例は、Guard モジュールがポリシーを 1 時間間隔で受け入れるように設定する方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# learning-params periodic-action
auto-accept 0 1 0
```

## しきい値選択方式の設定

しきい値調整フェーズ中に、Guard モジュールが新しいしきい値の生成に使用するデフォルトの方式を設定できます。しきい値調整フェーズの結果を手動で受け入れることも、しきい値調整フェーズの結果を特定の間隔で Guard モジュールが自動的に受け入れるように設定することもできます。

しきい値選択方式を設定するには、ゾーン設定モードで次のコマンドを使用します。

```
learning-params threshold-selection {new-thresholds | max-thresholds |
weighted weight}
```

表 9-2 に、`learning-params threshold-selection` コマンドの引数とキーワードを示します。

表 9-2 learning-params threshold-selection コマンドの引数とキーワード

パラメータ	説明
<code>new-thresholds</code>	ラーニングプロセスの結果をゾーン設定に保存します。
<code>max-thresholds</code>	現在のポリシーのしきい値をラーニングされたしきい値と比較し、値の大きい方をゾーン設定に保存します。 この方式がデフォルトです。
<code>weighted weight</code>	次の数式に基づいて、保存するポリシーのしきい値を計算します。  新しいしきい値 = (ラーニングしたしきい値 * 重み + 現在のしきい値 * (100 - 重み)) / 100

次の例は、ラーニングされたしきい値が現在のポリシーのしきい値よりも大きい場合に、提案されたポリシーを Guard モジュールが受け入れるように設定する方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# learning-params threshold-selection
max-thresholds
```

## ポリシーに対する調整済みのマーク付け

Guard モジュールは、ポリシーしきい値が調整されているかどうかを定義するポリシーしきい値の状態にマークを付け、保護およびラーニング機能をイネーブルにするときにこのステータスに関連付けます。ポリシーのしきい値のステータスは、ポリシーのしきい値を超過したときに、Guard モジュールでゾーンに対する攻撃と見なすかどうかを示します。

新しいゾーンが作成される時、またはゾーンに関するポリシー構築フェーズの結果を受け入れた後に、Guard モジュールはゾーンのポリシーのしきい値を未調整としてマークします。ゾーン テンプレートのデフォルトのしきい値は、ゾーンのトラフィックに異常を発見した場合に Guard モジュールがスプーフィング防止機能をすぐにアクティブにするように調整されています。保護およびラーニング機能をイネーブルにしている場合、現在のゾーントラフィックが現在のポリシーしきい値よりも高いと、ラーニングプロセスは停止します。このような状況を防ぐために、ゾーンポリシーが調整されていなければ、保護およびラーニング機能をイネーブルにした場合、ゾーンポリシーしきい値が受け入れられるまで Guard モジュールはゾーントラフィックにおける攻撃を検出しません。

ゾーンのポリシーが未調整である場合、Guard モジュールは、新しいポリシーを受け入れるときに、しきい値選択方式 `accept-new` をアクティブにして、以前のしきい値を無視します。Guard モジュールがそのゾーンに関するラーニングプロセスのしきい値調整フェーズの結果を受け入れるときに、`accept-new` 以外のしきい値選択方式を使用すると、ポリシーのしきい値の集合が不適切になる場合があります。しきい値の選択方式の詳細については、[P.9-18](#)の「[しきい値選択方式の設定](#)」を参照してください。

Guard モジュールは、次の場合にゾーンのポリシーを未調整としてマークします。

- 新しいゾーンを作成する場合
- ポリシー構築フェーズの結果を受け入れた場合

## ■ ラーニングパラメータの設定

- ゾーンポリシーに対してサービスの削除または新しいサービスの追加を行った場合

Guard モジュールは、しきい値調整フェーズの結果を受け入れた後に、ゾーンのポリシーを調整済みとしてマークします。

ユーザは、ゾーンポリシーの設定を変更できます。ゾーンポリシーに調整済みのマークを付けるには、ゾーン設定モードで次のコマンドを使用します。

**learning-params threshold-tuned**

ゾーンポリシーに未調整のマークを付けるには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

次のどちらかの場合、ゾーンポリシーのステータスを調整済みに変更することもできます。

- 新しいゾーンが既存のゾーンまたはスナップショットから複製されており、両方のゾーンのトラフィック特性が似ている場合
- ポリシーのしきい値をすべて手動で設定した場合

次のどちらかの場合、ゾーンポリシーのステータスを未調整に変更することもできます。

- ゾーンのネットワークに重要な変更を加えた場合
- ゾーンの IP アドレスまたはサブネットを変更した場合
- トラフィックのピーク時の間、保護およびラーニング機能を開始していない場合。ゾーンポリシーのステータスを未調整に変更し、Guard モジュールがピーク時のトラフィックを攻撃として識別しないようにします。

ゾーンポリシーが未調整としてマークされている場合、Guard モジュールは現在のポリシーしきい値を監視しません。また、ポリシーしきい値が超過してもゾーンへの攻撃を検出しません。

**注意**

ゾーンに対する攻撃がある場合は、ゾーンポリシーのステータスを未調整に変更しないでください。これは、ステータスを変更すると Guard モジュールで攻撃が検出されなくなり、Guard モジュールが悪意のあるトラフィックのしきい値をラーニングするためです。

次の例は、ゾーンポリシーのステータスに調整済みのマークを付ける方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# learning-params threshold-tuned
```

## ゾーンのポリシーのしきい値調整とゾーン保護のイネーブル化の同時実行

保護およびラーニング機能を使用することで、ラーニングプロセスのアクティブ化とゾーン保護のイネーブル化を同時に実行できます。Guard モジュールは、ポリシーのしきい値を調整し、同時にトラフィックの異常についてポリシーのしきい値を監視します。保護およびラーニング機能により、ポリシーのしきい値をゾーンのトラフィック特性に基づいて常にアップデートしながら、Guard モジュールでゾーンを保護できるようになります。保護およびラーニング機能を使用すると、Guard モジュールが悪意のあるトラフィックのしきい値をラーニングすることを回避できます。



(注)

保護およびラーニング機能をアクティブ化する前に、ラーニングプロセスのポリシー構築フェーズをアクティブにして、ゾーンポリシーを構築する必要があります。

新しいゾーンを作成する場合、ゾーンポリシーからサービスを追加または削除するか、ポリシー構築フェーズの結果を受け入れることで、Guard モジュールはゾーンポリシーを未調整としてマークします。Guard モジュールは、ラーニングプロセスのしきい値調整フェーズの結果を受け入れた後にだけ、ゾーンのポリシーを調整済みとしてマークします。しきい値調整フェーズの結果を手動で受け入れることも、**learning-params** コマンドを使用して、Guard モジュールが自動的に受け入れるように設定することもできます。

## ■ ゾーンのポリシーのしきい値調整とゾーン保護のイネーブル化の同時実行

ラーニング プロセスとゾーン保護が同時にイネーブルになっており、ゾーン ポリシーのステータスが未調整の場合、ゾーン ポリシーのしきい値が受け入れられるまで、Guard モジュールは次のように機能します。

- Guard モジュールはゾーントラフィックの攻撃を検出しません
- Guard モジュールは、しきい値選択方式 `accept-new` だけをアクティブにする (P.9-18 の「しきい値選択方式の設定」を参照)。

Guard モジュールがゾーン上で攻撃を識別すると、ラーニングプロセスを停止しますが、ゾーンの保護は続けます。攻撃が終了すると、ゾーンの保護とゾーントラフィックの特性のラーニングを再開します。

保護およびラーニング機能をアクティブにする前に、Guard モジュールがラーニングプロセスの結果をいつ、どのように受け入れるかを設定できます。詳細については、P.9-16 の「ラーニングパラメータの設定」を参照してください。

ラーニングプロセスとゾーン保護を同時にアクティブにするには、**protect learning** コマンドを使用するか、**learning threshold-tuning** コマンドと **protect** コマンドを順番に入力します (順序は問いません)。

詳細については、P.9-11 の「ポリシーしきい値の調整」および第10章「ゾーンの保護」を参照してください。

## スナップショットを使用したラーニング プロセスの結果の確認

ラーニング プロセス中の任意の段階でラーニング パラメータ（サービス、しきい値、その他のポリシー関連データ）のスナップショットを保存して、後で確認できます。2つのゾーンのラーニング パラメータまたはスナップショットを比較して、ラーニング プロセスの結果を確認し、ポリシー、サービス、およびしきい値の違いをトレースできます。

ラーニング プロセス中、数時間ごとにスナップショットを保存することをお勧めします。ラーニング プロセス中に攻撃が発生した場合は、スナップショットポリシーをゾーンに使用できます。スナップショットは、手動で撮ることも、指定した間隔で Guard モジュールが自動的に撮るように設定することもできます。Guard モジュールは、スナップショットをゾーンごとに 100 個まで保存します。以前のスナップショットは新しいスナップショットに置き換えられます。

スナップショットからゾーン ポリシーをコピーすることで、必要に応じて、以前のラーニングの結果に基づいてゾーンを設定できます。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [スナップショットの作成](#)
- [ラーニングの結果の比較](#)
- [スナップショットの表示](#)
- [スナップショットの削除](#)
- [ポリシーをゾーン設定にコピーする](#)

### スナップショットの作成

ゾーンのラーニング パラメータの単一スナップショットを保存することができます。または、指定した間隔で Guard モジュールが自動的にスナップショットを撮るように設定できます。Guard モジュールは、スナップショットが撮られている間も、ラーニング プロセスを続行します。

Guard モジュールが指定した間隔で自動的にスナップショットを撮るように設定する方法の詳細については、[P.9-17](#)の「[定期的なアクションの設定](#)」を参照してください。

## ■ スナップショットを使用したラーニングプロセスの結果の確認

ゾーンのラーニングパラメータのスナップショットを1つ保存するには、ゾーン設定モードで次のコマンドを使用します。

```
snapshot [threshold-selection {new-thresholds | max-thresholds | cur-thresholds
| weighted calc-weight}
```

表 9-3 に、`snapshot` コマンドの引数とキーワードを示します。

表 9-3 snapshot コマンドの引数とキーワード

パラメータ	説明
<code>threshold-selection</code>	Guard モジュールがスナップショットのしきい値計算に使用する方式を設定します。デフォルトでは、Guard モジュールは <code>learning-params threshold-selection</code> コマンドで定義されたゾーンしきい値選択方式を使用します。ゾーンのデフォルトのしきい値選択方式は、 <b>max-thresholds</b> です。
<code>new-thresholds</code>	ラーニングプロセスの結果をゾーン設定に保存します。
<code>max-thresholds</code>	現在のポリシーのしきい値をラーニングされたしきい値と比較し、値の大きい方をゾーン設定に保存します。これがデフォルトの方法です。
<code>weighted <i>calc-weight</i></code>	次の数式に基づいて、保存するポリシーのしきい値を計算します。  しきい値 = (新しいしきい値 * 計算された重み + 現在のしきい値 * (100 - 計算された重み)) / 100
<code>cur-thresholds</code>	ラーニングプロセスの新しいしきい値を無視して、現在のポリシーのしきい値をスナップショットに保存します。この方式は、バックアップの目的で使用できます。

`snapshot` コマンドを使用すると、ゾーンのラーニングプロセスの結果が保存されます。この結果には、ゾーンのポリシー、サービス、およびしきい値が含まれます。スナップショットのパラメータを確認するか、2つのスナップショットを比較するか、またはスナップショットのパラメータを新しいゾーンにコピーし終わったら、スナップショットを削除できます。



**snapshot threshold-selection cur-thresholds** コマンドを使用すると、現在のゾーンポリシーをバックアップできます。

次の例は、ポリシーの現在のしきい値とラーニングプロセスの新しいしきい値のうちで最も大きい値をしきい値として持つスナップショットを作成する方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# snapshot threshold-selection  
max-thresholds
```

グローバルモードでスナップショットを1つ保存するには、**snapshot zone-name [threshold-selection {new-thresholds | max-thresholds | cur-thresholds | weighted weight}]** コマンドを使用します。

## ラーニングの結果の比較

2つのスナップショットまたはゾーンのラーニングの結果を比較して、ポリシー、サービス、およびしきい値の違いをトレースできます。

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- [スナップショットの比較](#)
- [ゾーンの比較](#)

## スナップショットの比較

2つのスナップショットを比較するには、ゾーン設定モードで次のコマンドを使用します。

```
diff snapshots snapshot-id snapshot-id [percent]
```

表 9-4 に、**diff** コマンドの引数を示します。

**表 9-4 diff コマンドの引数**

パラメータ	説明
<i>snapshot-id</i>	比較するスナップショットの ID。ゾーンのスナップショットのリストを表示するには、 <b>show snapshots</b> コマンドを使用します。
<i>percent</i>	(オプション) 違いの割合。Guard モジュールは、2つのスナップショットを比較して、指定した値よりも大きいポリシーしきい値の違いだけを表示します。デフォルトのパーセンテージは 100% で、Guard モジュールは 2つのスナップショットにおける相違をすべて表示します。

次の例は、ゾーンのスナップショットの表示方法と、最新の 2 つのスナップショットを比較する方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# show snapshots
ID      Time
1       Feb 10 10:32:04
2       Feb 10 10:49:12
3       Feb 10 11:01:50
user@GUARD-conf-zone-scannet# diff 2 3
```

グローバルモードでスナップショットを比較するには、**diff zone-name snapshots snapshot-id snapshot-id [percent]** コマンドを使用します。

## ゾーンの比較

2つのゾーンのラーニングパラメータを比較するには、グローバルモードまたは設定モードで次のコマンドを使用します。

```
diff zone-name zone-name [percent]
```

表 9-5 に、**diff** コマンドの引数を示します。

表 9-5 diff コマンドの引数

パラメータ	説明
<i>zone-name</i>	比較対象のラーニングパラメータを持つゾーンの名前。
<i>percent</i>	(オプション) 違いの割合。Guard モジュールは、2つのゾーンを比較して、指定した値よりも大きいポリシーしきい値の違いだけを表示します。デフォルトのパーセンテージは100%で、Guard モジュールは2つのゾーンにおける相違をすべて表示します。

次の例は、2つのゾーンのラーニングパラメータの比較方法を示しています。

```
user@GUARD# diff scannet scannet-mailserver
```

## スナップショットの表示

次のコマンドを入力すると、ゾーンのスナップショットまたはスナップショットパラメータのリストが表示され、ゾーンのラーニングの結果を包括的に把握できます。

```
show snapshots [snapshot-id [policies policy-path]]
```

表 9-6 に、**show snapshots** コマンドの引数とキーワードを示します。

## ■ スナップショットを使用したラーニングプロセスの結果の確認

表 9-6 show snapshots コマンドの引数とキーワード

パラメータ	説明
<code>snapshots</code>	ゾーンのスナップショットを表示します。スナップショットの ID を指定しない場合、Guard モジュールは、ゾーンのスナップショットすべてのリストを表示します。
<code>snapshot-id</code>	表示するスナップショットの ID。ポリシーを指定しない場合、デフォルトでは、ゾーンのスナップショットすべてのリストが表示されます。スナップショット ID を表示するには、このコマンドを引数なしで使用します。
<code>policy-path</code>	表示対象のポリシーのグループです。詳細については、 <a href="#">P.8-2</a> の「 <a href="#">ポリシーパスの使用</a> 」を参照してください。

グローバルモードでスナップショットを比較するには、`show zone zone-name snapshots [snapshot-id [policies policy-path]]` コマンドを使用します。

次の例は、ゾーンのスナップショットのリストを表示する方法と、スナップショット 2 の `dns_tcp` に関連するポリシーを表示する方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# show snapshots
ID    Time
1     Feb 10 10:32:04
2     Feb 10 10:49:12
user@GUARD-conf-zone-scannet# show snapshots 2 policies dns_tcp
```

`show zone zone-name snapshots snapshot-id policies policy-path` コマンドの出力のフィールドは、`show policies` コマンドの出力のフィールドと同じです。詳細については、[P.8-38](#) の「[ポリシーの表示](#)」を参照してください。

[表 9-7](#) に、`show snapshots` コマンド出力のフィールドを示します。

表 9-7 show snapshots コマンド出力のフィールドの説明

フィールド	説明
ID	スナップショット ID。
Time	スナップショットが取得された日付と時刻。

## スナップショットの削除

古いスナップショットを削除して、空きディスクスペースを得ることができます。

スナップショットを削除するには、ゾーン設定モードで次のコマンドを使用します。

```
no snapshot snapshot-id
```

*snapshot-id* 引数には、既存のスナップショットの ID を指定します。すべてのゾーンのスナップショットを削除するには、アスタリスク (\*) を入力します。スナップショットの詳細を表示するには、**show snapshots** コマンドを使用します。

次の例では、すべてのゾーンのスナップショットを削除する方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# no snapshot *
```

## ポリシーをゾーン設定にコピーする

ポリシーの全体の設定または部分的な設定を現在のゾーンにコピーできます。

次の情報をコピーできます。

- サービスのコピー：ソースゾーンからゾーンにサービスをコピーできます。これにより、これらのサービスの検出にポリシー構築フェーズを適用することなく、ゾーンポリシーを設定できます。サービスをゾーンにコピーするには、まず、そのゾーンが同様のトラフィックパターンを持つことを確認します。
- ポリシーパラメータのコピー：ゾーンポリシーパラメータをゾーンのスナップショットのポリシーパラメータに置き換えることができます。これにより、以前のラーニングの結果に戻すことができます。Guard モジュールは、既存ポリシーのパラメータだけをコピーします。

ゾーンのポリシーをコピーするには、ゾーン設定モードで次のコマンドを使用します。

```
copy-policies {snapshot-id | src-zone-name [service-path]}
```

表 9-8 に、**copy-policies** コマンドの引数とキーワードを示します。

## ■ スナップショットを使用したラーニングプロセスの結果の確認

表 9-8 copy-policies コマンドの引数とキーワード

パラメータ	説明
<i>snapshot-id</i>	ポリシーのコピー元のスナップショットの ID。スナップショットの ID を表示するには、 <b>show snapshots</b> コマンドを使用します。
<i>src-zone-name</i>	サービス ポリシーのコピー元のゾーン名。
<i>service-path</i>	<p>コピー元のサービス。サービス パスの形式は、次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>policy-template</b>: ポリシー テンプレートに関連するすべてのポリシーをコピーします。</li> <li><b>policy-template/service-num</b>: ポリシー テンプレートおよび指定のサービスに関連するすべてのポリシーをコピーします。</li> </ul> <p>デフォルトでは、すべてのポリシーとサービスがコピーされます。</p>

次の例は、ポリシー テンプレート `tcp_connections` に関連するすべてのサービスを、ゾーン `webnet` から現在のゾーン `scannet` にコピーする方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# copy-policies webnet tcp_connections/
```

次の例は、ゾーンのスナップショットのリストを表示し、次に ID が 2 のスナップショットからポリシーをコピーする方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# show snapshots
ID    Time
1     Feb 10 10:32:04
2     Feb 10 10:49:12
user@GUARD-conf-zone-scannet# copy-policies 2
```

## ゾーンポリシーのバックアップ

現在のゾーンポリシーは、**snapshot threshold-selection cur-thresholds** コマンドを使用していつでもバックアップできます。

次の例は、現在のゾーンポリシーのバックアップ方法を示しています。

```
user@GUARD-conf-zone-scannet# snapshot threshold-selection  
cur-thresholds
```

■ ゾーンポリシーのバックアップ